

ENVI5.6 SP2

リリースノート

Note

最新の情報に関しては、下記のリンクを参照してください。

<http://www.harrisgeospatial.com/SoftwareTechnology/ENVI.aspx>

このリリースノートは次の項目に分かれています。

内容

ENVI5.6 SP2 のサポートプラットフォーム	2
ENVI5.6 SP2 の新機能	4
ENVI5.6 SP2 で修正された問題	4

ENVI5.6 SP2 のサポートプラットフォーム

ENVI5.6 SP2 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。サポートバージョンに変更があるため、ソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはネットワークカード（NIC もしくは Ethernet）が必要になります。

プラットフォーム	ハードウェア	オペレーティングシステム	サポートバージョン ^b
Windows	Intel / AMD 64-bit ^a	Windows	10, 11
Macintosh	Intel 64-bit	macOS	10.14, 10.15, 11, 12 ^c
	M1		11, 12 ^d
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 3.10.0 glibc 2.17

a: ENVI5.3 より Windows は 64-bit OS のみのサポートとなります。32bit モードの ENVI を起動する場合は、「ENVI5.6/IDL8.8 インストールガイド」の「Windows 版 ENVI/IDL の起動方法」をご確認ください。

b: サポートバージョン中の記載は、ENVI / IDL の構築・テスト環境を示しています。弊社による公式のサポートは、表に記載されたインストール環境に対して適用されません。

c: Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.8.1 にて動作確認されています。

d: M1 チップマシンには、Rosetta2 エミュレータが必要です。

推奨環境：

本製品を快適に利用するために 1GB 以上のメモリを持つグラフィックボードの搭載と、バージョン 2.0 以降の OpenGL のマシン環境を推奨します。また、搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。ヘルプシステムは HTML5 対応ブラウザを必要とします。

また、現行の ENVI の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	4GB
メモリ	8GB
CPU	最小 2Core 推奨 4Core 以上

ライセンスサーバーのサポートプラットフォーム

本製品をフローティングのライセンスのサーバー機として使用する場合には、ライセンスサーバー（Flexnet License Server）を使用します。そのライセンスサーバーのサポートプラットフォームを以下の表に示します。なお、MacOS はフローティングサーバーとしては動作いたしません。

ライセンスサーバーをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、フローティングライセンスに関しても、ライセンス認証にはネットワークカード（NIC もしくは Ethernet）を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	CPU アーキテクチャ	サポートバージョン
Windows 64bit	x86-64	Windows Server 2012, 2012 R2, 2016, 2019 Windows 8.1, 10
Linux	x86-64	Cent OS 7.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.x Ubuntu 16, 18

また、現行の Flexnet License Server 2020.07 の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	500MB
メモリ	4 GB
CPU	2GHz – 2 Cores

その他：

搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。各製品の Help は HTML5 対応ブラウザを必要とします。

ENVI5.6 SP2 の新機能

ENVI5.6 SP2 の新機能詳細は以下のページを参照ください。

https://www.harrisgeospatial.com/docs/using_envi_WhatsNew.html

ENVI5.6 SP2 で修正された問題

ID	解説
IDL-70817	M1 チップの Mac で Rosetta を実行している Java AdoptOpenJDK に起因したワークベンチが不安定になる問題が発生していました。
ENVI-72509	テキストセグメントを含む 2GB を超える NITF を開くと、ENVI がクラッシュしました。
ENVI-72544	最尤法分類で "MAX : Illegal keyword value for DIMENSION" のエラーが発生しました。
ENVI-72564	Topographic Shading ツールとタスクに RMS と Slope percent のオプションがありませんでした。

お問い合わせ

ご質問は、以下テクニカルサポート宛てにお問い合わせください。

Harris Geospatial 株式会社

製品技術サポート担当

Email : support_jp@L3harris.com